

豪総選挙での与党勝利を受けてモリソン政権は続投へ

- 5月18日の豪総選挙では、事前の世論調査に反して与党・保守連合が勝利し、モリソン政権の続投が決定的となる。
- 下院議会では保守連合の獲得議席は77議席に達するとみられ、モリソン政権が単独過半数を握る可能性も高まる。
- 上院では保守連合の議席は過半数に届かない見込み。上院での法案審議では小規模政党との協力が必要に。
- 労働党の敗北で左派寄りの政策リスクが後退。モリソン政権は財政黒字化と同時に、減税やインフラ投資を推進へ。

総選挙での勝利を受け、保守連合は政権を維持

5月18日実施の豪州の総選挙では、世論調査での野党・労働党の優勢観測に反して、与党・保守連合の予想外の勝利となり、モリソン政権の続投が決定的となりました。

全151議席が争われた下院議会選挙では、開票率76.2%の時点で、保守連合の獲得議席は75議席と労働党の65議席を大きく上回っています(図1)。保守連合の予想議席は過半数(76議席)を上回る77議席に達するとみられており、モリソン政権は下院議会で単独過半数を握る可能性も高まっています。

上院では引き続き小規模政党との協力が必要に

一方、上院議会選挙では、保守連合の議席予想は選挙前の31議席から33議席へ2議席の増加となる見込みですが、過半数の39議席には届かない模様です(図2)。モリソン政権は上院での法案審議において、引き続き小規模政党と協力関係を構築する必要がありそうです。

モリソン政権は減税やインフラ投資を進める方針

総選挙での労働党の敗北により、労働党が主張してきた高所得層向け増税策や賃金引上げ介入などの左派寄りの政策が実現するリスクは大きく後退したと考えられます。

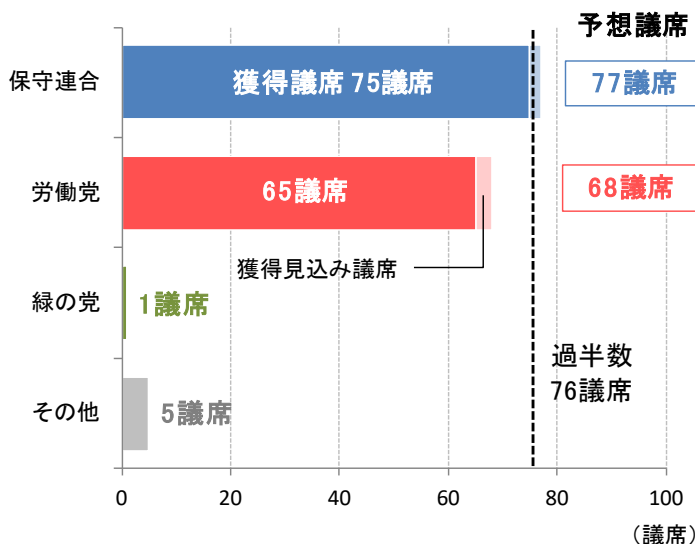
モリソン政権続投によって、市場や企業寄りの経済政策が保たれる公算が増したことが好感され、5月20日の豪州金融市場は株高・豪ドル高の反応を示しています。

モリソン政権の経済政策の方針は、4月に公表された政府予算案の計画が中心となりそうです。予算案では早期の財政黒字化の見通しを背景に財政政策の裁量が増す中、モリソン政権は所得税減税や中小企業向け法人税減税、インフラ投資などを進める方針を打ち出しています。

(参照マーケット・レター:2019年4月3日付)

「豪政府予算案は財政健全化計画と景気対策を示す」

図1:豪州の総選挙の結果(下院議会)

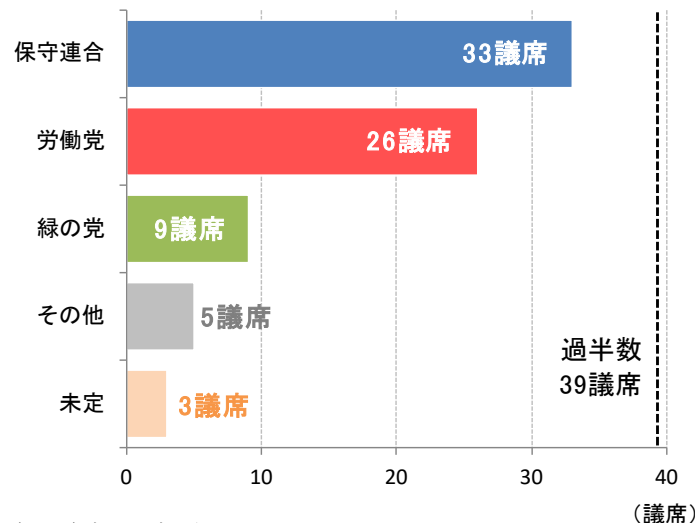


(出所)豪公共放送ABC

(注)開票率76.2%時点。全議席数は151議席。

図2:豪州の総選挙の結果(上院議会)

(※)総選挙後の議席予想(非改選議席+獲得議席+獲得見込み議席)



(出所)豪公共放送ABC

(注)開票率49%時点。全議席数は76議席(今回は40議席の改選)。